

Disclosure^{Mini}

2021
4.1▶9.30

ひびしん 経営内容のお知らせ

上半期ディスクロージャー



二島支店 令和3年11月15日オープン



中間支店 令和3年5月10日オープン



福岡ひびき信用金庫

令和3年度 上半期の業績について

① 事業概況

猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度の日本経済はヒトやモノの遮断が世界的な規模で求められていますが、それは経済そのものの流れを遮断する事にも繋がっており、経済活動も制限せざるを得ない状況が続いています。

9月末を持って緊急事態宣言は解除となり、福岡県においては新規感染者数が10人未満となる日もある等改善の兆しはありますが、今後も医療提供体制の確保、感染防止対策の徹底、ワクチン接種の推進の3つの柱からなる対策を確実に進め、早期に社会経済活動のレベルを上げていく必要があると考えます。

このような状況の中で、令和3年度上期につきましても、長引く経済活動の停滞の影響を受けている中小企業を下支えするべく、お取引先の資金繰りなどの金融支援のご提案や、営業店と本部が連携した経営改善支援、事業承継支援に取り組んでおります。

令和3年度の上半期業績については、以下のとおりとなっております。

② 業績

預金の状況

預金積金については、上期預金キャンペーンとして、長引くコロナ感染症拡大により負担の大きい医療従事者に対し、感謝と支援の気持ちを表すため“医療従事者応援定期預金 THANKS HEROES”を販売し、59億9千5百万円獲得することができました。この結果、預金積金の9月末残高は、対前年同月比374億5千5百万円増加の8,097億2千5百万円となりました。

貸出金の状況

貸出金については、お客様の資金繰り支援も然ることながら、営業店と本部が連携してお客様に寄り添った経営改善支援にも力を入れた結果、事業性融資では新規事業所先444先を開拓し、48億2千6百万円を獲得することができました。また、個人向けの貸出について、消費者ローンを1,638件の28億8千5百万円獲得、住宅ローンを249件の43億3千1百万円獲得することができました。この結果、貸出金の9月末残高は、対前年同月比193億7千8百万円増加の4,037億7千2百万円となりました。

収益の状況

貸出金利息につきましては、コロナ禍において厳しい経営環境に置かれている中小企業を下支えするため、資金繰りなどの金融支援に力を入れたことで、事業性融資及び消費者ローンが伸長し、貸出金利息は対前年同月比6千9百万円の増加となりました。有価証券運用につきましては、前年度と同様にリスクとリターンのバランスに配慮した運用に取り組み、対前年同月比1億4千9百万円増加し、業務収益は増加しました。

また、株式等売却益や金銭の信託運用益が減少するなど臨時収益が減少した結果、経常収益は対前年同月比11億1千9百万円減少の78億1千7百万円となりました。

一方、費用面では、資金調達費用の大半である預金利息が対前年同月比で2千5百万円減少、経費については緊急事態宣言の発令、延長に伴い職員の出勤調整を余儀なくされたことや、各種イベントや行事の中止が続いたこともあり、人件費、物件費ともに減少しました。また、国債等債券売却損及び償還損も減少したことで、業務費用も減少しました。臨時費用も減少した結果、経常費用は対前年同月比21億1千1百万円減少の56億3千9百万円となりました。

以上の結果、経常利益は、前年同月比9億9千1百万円増加の21億7千8百万円となりました。

令和3年度 上半期の業績 (計数)

以下に掲載している諸計数等は、当金庫へのご理解を深めていただくために任意に開示しているものであり、会計監査人の監査は受けておりません。

また、各計数につきましては、単位未満を切り捨てて表示しております。

預金・貸出金の状況

令和3年9月期の預金積金残高は、8,097億円となりました。

令和3年9月期の貸出金残高は、4,037億円となりました。

■預金積金残高

(単位：百万円)

	令和3年3月期	令和3年9月期
預 金 積 金 残 高	756,089	809,725
流動性預金	425,507	460,160
定期性預金	330,485	349,479
その他の預金	95	85

■貸出金残高

(単位：百万円)

	令和3年3月期	令和3年9月期
貸 出 金 残 高	391,658	403,772
割引手形	2,879	2,899
手形貸付	19,753	20,815
証書貸付	352,948	361,524
当座貸越	16,077	18,532

■業種別貸出金残高

(単位：百万円)

	令和3年3月期			令和3年9月期		
	貸出先数	貸出金残高	構成比(%)	貸出先数	貸出金残高	構成比(%)
製 造 業	528	19,242	4.91	543	21,039	5.21
農 業 / 林 業	12	51	0.01	8	42	0.01
漁 業	1	0	0.00	2	1	0.00
鉱業 / 採石業 / 砂利採取業	2	246	0.06	3	245	0.06
建 設 業	1,908	46,730	11.93	1,978	48,260	11.95
電気・ガス・熱供給・水道業	3	1,461	0.37	3	1,629	0.40
情 報 通 信 業	77	799	0.20	77	767	0.18
運 輸 業 / 郵 便 業	156	9,869	2.51	165	9,976	2.47
卸 売 業 / 小 売 業	1,257	32,412	8.27	1,287	33,340	8.25
金 融 業 / 保 険 業	57	10,293	2.62	60	12,782	3.16
不 動 産 業	911	76,646	19.56	919	78,224	19.37
物 品 賃 貸 業	34	2,320	0.59	34	2,227	0.55
学術研究 / 専門・技術サービス業	251	2,708	0.69	257	2,751	0.68
宿 泊 業	13	864	0.22	13	842	0.20
飲 食 業	743	7,670	1.95	759	7,657	1.89
生活関連サービス業 / 娯楽業	407	5,007	1.27	416	4,689	1.16
教 育 / 学 習 支 援 業	64	1,971	0.50	69	1,978	0.48
医 療 / 福 祉	354	14,043	3.58	367	14,241	3.52
そ の 他 の サ ー ビ ス	557	10,802	2.75	570	11,696	2.89
地 方 公 共 団 体	12	13,835	3.53	12	16,278	4.03
個 人	22,226	134,677	34.38	21,933	135,099	33.45
合 計	29,573	391,658	100.00	29,475	403,772	100.0

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

ひびしん 経営内容のお知らせ

損益の状況

令和3年9月期の税引前当期純利益は、対前年同月比12億5百万円増加の21億7千万円となり、減収増益となりました。新型コロナウイルス感染症が長期化する中で、飲食・観光業を中心に地域経済に大きな影響が及んでおります。先行きに不透明感があることは否めませんが、今後もお客様に寄り添い、金庫の健全性を保ちながら、課題解決に向けて役職員一丸となって取り組んでまいります。

■損益の状況

(単位：百万円)

	令和2年9月期	令和3年9月期
経常収益	8,937	7,817
経常費用	7,750	5,639
業務純益	△502	1,697
コア業務純益	1,119	1,533
コア業務純益（除く投資信託解約損益）	950	1,179
経常利益	1,187	2,178
税引前当期純利益	965	2,170
当期純利益	871	1,573

有価証券の状況

主に国内の債券を中心に有価証券運用を行っており、令和3年9月期の評価損益は100億7千6百万円となっております。

■有価証券の状況

(単位：百万円)

	令和3年3月期				令和3年9月期			
	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損
株式	9,499	2,137	2,171	33	13,705	2,143	2,290	146
債券	125,347	2,296	2,446	149	123,973	2,583	2,670	87
その他	121,722	4,412	5,210	798	137,951	5,350	5,869	519
合計	256,569	8,846	9,828	981	275,630	10,076	10,830	753

(注) 1. 上記の「その他」とは外国証券及び投資信託等です。
2. 評価損益には帳簿価額(償却原価)と時価との差額を計上しております。

不良債権の状況

金融再生法開示債権による不良債権比率は2.66%となりました。不良債権に対しては十分な引当を実施しており、内部留保とあわせて備えは万全です。

■金融再生法上の不良債権残高

(単位：百万円)

	令和3年3月期	令和3年9月期					
	開示残高	開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証等による 回収見込額 (c)	貸倒引当金 (d)	保全率 (b/a)	引当率 d/(a-c)
金融再生法上の不良債権(A)	10,742	10,808	9,614	7,204	2,409	88.95%	66.86%
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,723	3,154	3,154	2,164	989	100.00%	100.00%
危険債権	6,597	6,280	5,504	4,427	1,077	87.65%	58.13%
要管理債権	1,421	1,373	955	611	343	69.52%	45.05%
正常債権	382,479	394,437					
合計(B)	393,222	405,245					
不良債権比率(A)/(B)	2.73%	2.66%					

(注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の理由により経営破綻の状態に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 「要管理債権」とは、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権をいいます。
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。

自己資本の状況

当金庫の令和3年9月期の自己資本比率は、国内基準の4%を大幅に上回っており、経営の健全性を維持しております。

■単体自己資本比率

(単位：百万円)

項 目	令和3年3月期	令和3年9月期
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	50,190	51,619
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	48,345	49,928
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,695	1,541
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	150	150
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	263	234
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。）の額の合計額	263	234
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	49,927	51,385
信用リスク・アセットの額の合計額	411,115	426,409
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	0	0
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	0	0
うち、上記以外に該当するものの額	0	0
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	19,702	19,702
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	430,818	446,111
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	11.58%	11.51%

(注)自己資本比率の算出方法を定めた告示の改正に伴う新しい自己資本規制に基づき算出しています。
なお、当金庫は国内基準を採用しております。

出資金及び会員数の状況

信用金庫は、営業地域内の中小企業や住民の方々を会員とした協同組織の地域金融機関です。地域の皆さまからお預かりしたご預金等をもとに、会員の方はもちろん地域の皆さまに広くご融資しております。信用金庫は地域の中小企業や住民の皆さまに安定した資金を提供することで、地域の再生・活性化を図ることを使命としております。

■出資金および会員数

	令和3年3月期	令和3年9月期
出 資 金 残 高 (百万円)	3,466	3,461
会 員 数 (人)	73,150	73,436